

メイン処理パラメータ

値を変更するには、パラメータをクリックして上下にドラッグします。ALTキーを押しながらクリックすると0と最新のユーザー設定の間で値が切り替えられます。SHIFTキーを押しながらドラッグするとさらに微妙な調整が可能です。強調表示されているパラメータの値は、キーボードの上向きまたは下向きの矢印を使用すると最も高い精度で微調整できます。また、数値を入力してENTERキーを押すと制御値をその値に設定できます。

TAME/RECOVER：これら2つのパラメータは、信号の明瞭度、詳細、広がり、改善に使用できるマスクされた信号成分を示します。支配的な成分の強度を抑える、または被支配的な成分の強度を高めることでこのような改善を行います。TAMEは支配的な成分を抑えるために、RECOVERは被支配的な成分を高めるために使用します。

BIAS：支配、被支配がはっきりしない場合にGULLFOSSがTAMEまたはRECOVERのどちらを使用するかはBIASで制御します。正の値に設定するとRECOVER、負の値に設定するとTAMEの方向にバイアスをかけます。

BRIGHTEN：GULLFOSSは、すべての周波数成分と可聴要素でバランスが取れたミキシングを行うようにオーディオ信号を処理します。通常、ジャンルや音楽的な文脈に合うように、音楽信号の知覚明瞭度を調整する必要があります。BRIGHTENコントロールは、GULLFOSSが決定するTAMEおよびRECOVERを調整することで出力が適切な明瞭度になるように制御します。負の値に設定するとサウンドの明瞭度が下がり、正の値に設定すると明瞭度が上がります。一般的にはゼロに近い値を設定すると客観的にバランスの取れた出力となります。

このパラメータは、TAMEまたはRECOVERのいずれかがゼロ以外の値に設定されている場合のみに信号に影響します。

BOOST：信号の知覚明瞭度と同様に、周波数の低音域、高音域、および中音域のバランスもジャンルや音楽的な文脈によって異なります。BOOSTパラメータは、サウンドの音量が変化したときに人間の耳に知覚される周波数のバランスがどのように変化するかをシミュレートします。

BOOSTの設定値を上げると、信号の低音域周波数が強調され、中音域周波数が低減されます。

このパラメータは、好みやどのような状況で視聴されるかに合わせて出力を調整する場合に使用します。

出力セクション

出力ゲインを調整するにはGAINスライダを使用します。メインパラメータコントロールと同様に、ALTキーとSHIFTキーを同時に押すと、0dBのゲインをリセットし個別に細かく調整できます。値の設定には矢印キーを使用することも数値を直接入力することもできます。出力ゲインは、他の処理段階に影響を与えません。

BYPASSボタンを使用すると、適切なA/B比較のために遅延補正を行ったバイパス処理ができます。ただし、処理エンジンは動作を継続するためCPU負荷への影響はありません。

イコライザのグラフ表示

GULLFOSSで信号がどのように処理されるかはイコライザで確認できます。イコライザは各時点の信号の明瞭度を改善するため連続的に調整されます。GULLFOSSには、信号が人間に実際にどのように聴こえるか、また、それをどのように改善できるかを理解するための非常に高度な機能が搭載されています。このイコライザの調整にはこの機能が使用されています。

メインのイコライザグラフには、GULLFOSSが行う処理に関する情報がリアルタイムで表示されます。このグラフから、GULLFOSSが信号のどのような問題を解決しようとしているかがわかります。たとえば、4 kHzを超える周波数が継続的に6 dB付近に引き上げられていることがわかった場合、GULLFOSSを使用せずにミキシングでこの変更を加えることでそのサウンドを改善できます。

何らかの理由でGULLFOSSでの処理を一部の可聴音域のみに限定したい場合は、イコライザグラフの両端から2つのリミットマーカーをドラッグすると処理対象の周波数範囲を限定できます。これにより、リミットマーカーより下の周波数とリミットマーカーより上の周波数が処理の対象から外されます。このマーカーの位置を変更すると、処理対象から周波数範囲を除外したり、選択した周波数範囲のみを処理したりするように指定できます。

処理対象範囲と非処理対象範囲間の移行は滑らかに行われ、処理の強度はグラフ背景の赤色の影で示されます。イコライザグラフの処理対象の周波数範囲の外でもいくつかの処理が行われることがありますこれはダイナミックなラウドネス補正が行われた場合やBOOSTパラメータにゼロ以外の値が設定されている場合に発生します。

入力/出力ピーク振幅レベル用目盛り

このセクションには、両方のステレオチャンネルの入出力両方のピークレベルの基本的な測定値が表示されます。モノラルモードでは、左右両方の目盛りにモノラル信号レベルが表示されます。

-12 dBfsを超える信号振幅レベルは、振幅レベル用の目盛りのいずれかの場所をクリックして解放するまでそのまま表示されます。GULLFOSSでは処理中に認識された入力信号のラウドネスが保持されたままピークレベルが大きく変化することがあります。ピークレベルの増加に対応できるように、処理チェーンに十分なヘッドルームを確保してください。

GULLFOSSのロゴ

ロゴをクリックすると、情報ダイアログボックスが開きます。このダイアログボックスには、ライセンス情報、プラグインライセンスの有効化/無効化オプション、著作権およびお問い合わせ先情報が表示されます。使用許可を削除する場合はライセンス情報をクリックしてください。

水平方向と垂直方向のパラメータの目盛り

BOOST以外のメインパラメータには、信号の各パラメータのその時点の効果を示す目盛りが用意されています。

対応するパラメータコントロールの上にカーソルを重ねると、関連する目盛りが明るく表示されます。左側にある最初の垂直方向の目盛りはBIASの値を示します。これは、再生している信号に、TAMEまたはRECOVERが現在使用されていることを示します。負の値は弱める(TAME)方向に、正の値は強める(RECOVER)方向にバイアスがかけられていることを示します。2番目の垂直方向の目盛りは2分割されています。上の部分は、RECOVERコントロールで、すべての周波数に対するRECOVERの現在の全体の影響を示します。下の部分は、TAMEコントロールに関する同様の情報を表示します。

イコライザ表示の下にある水平方向の目盛りは、BRIGHTENコントロール用の目盛りです。この目盛りには、現在の処理が入力信号の知覚される明瞭度にどのように影響を及ぼすかが示されます。

